

駅、再会、に続く大人の男と女の艶っぽい歌という意味では三部作と言えますが、今回は長年連れ添った相手への詫びと労わりを綴った男歌です。

悲哀感をベースに、ある種の甘い雰囲気を書き上げた前二作とは又一味違う作品です。

男の深い心のうちをザックリとしたメロディラインで綴って行きます。さて歌の導入部の気持ちの入れ方ですが、男は夢に破れた切なさ、挫折感が心のうちに広がります。

そんな男の姿を見つめる女の視線は優しさに満ち満ちています。

男の夢に寄り添うよりも、男との暮らしその物に絶対的な価値を見出している女が、日常生活の中でなにげに声をかけます。

「雨がきそう」、..しどけなく窓辺に寄り添って空模様を見上げるその姿は男にしてみれば天女のように美しく、いとおいしい存在です。その言葉にこたえて「背中のうすさ」、...は可愛いなお前は、..、という気持ちを持って答えます。

この出だしの**2**行は男女の会話という感じでその状況を演出すると同時に、

3行目に男の心の内にスポットライトが当たる準備段階を意識して下さい。

「夢を～」ここから男の心を語りますがこのフレーズは力強い声ではなく果たせぬ夢を嘆くように、少し倦怠感を持って、技術的には声に息を混ぜるような感じで、...、「お前に～」激しい果たせない夢への悔恨の情が蘇ってきます。

メロディを揺るがすように。その為にここは**3**連譜が使われています。

「話せても～」メロディが上昇ラインに向かう時は当然、思い切って声を張り上げる。

得に「も～」の音はロングトーンなので最初からバイブレーションを使わないでなるべく声を伸ばし切って最後の余韻だけ揺らす感じです。

ここがこの歌の中で唯一男が胸を張って雄々しく歌い上げる所です。

「何もやれずに泣かせてばかり～」メロディが下降ラインなので声の量で表現するよりも心の裏を語ります。特に、何も～の「も」、やれず～の「ず」、泣かせて～の「か」、や「て」、ばかり～の「か」、このあたりの言葉をはっきりタイプで打つようにはっきりと突いて下さい。

技術的にはお腹に息をためて言葉を搾り出す様な感じで、

そしてリズムは決して崩さない様に。**3**、**4**行目は男の心のうちを吐露した訳ですね。

5行目は目の前にいる相手の女性に、男らしくゴメン、

日常の会話で話すようにスパッとその場の空気を切り裂くような雰囲気があれば最高です！

そして「ごめんね～」こんどは歌うわけです。

3行目に出てきた**3**連譜のフレーズと同じです。

揺るがすような歌い方をする事によってその思いの深さを強調します。

その気持ちを切らさないでたたみかける様に「苦勞を～」を盛り上げて「かけるね～」に行きますが、かけるね～の前で少しためる間があってもいいかも知れません。

今回の作品は話す、語る、そして歌う、この要素が明確に色分けされています。あまりその変化を意識しすぎてギクシャクしないように、スムーズな流れの中で歌い切るように。

その変化というかバリエーションを楽しんで下さい。